



# 鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

## パウロの言葉

「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです」

### 聖書(第1コリント書12章3節)

牧師 河合裕志

ここで言う聖霊は復活したイエス・キリストの霊のこと。イエスは十字架による刑死の後に復活して栄光の体となって天の父なる神の右に座している。と同時に霊的姿において地上の教会に、信徒の心の内に宿っている。もはや肉眼には見えない。これを聖霊と言っている。

この聖霊が一人一人にいろいろな賜物(カリスマ)を与えてくれる。パウロはここでこんな場合をあげている。①知恵の言葉 ②知識の言葉 ③信仰 ④病気をいやす力 ⑤奇跡を行う力 ⑥預言する力 ⑦霊を見分ける力 ⑧異言を語る力 ⑨異言を解釈する力。

なかなか素晴らしい賜物。ここで「異言」というのは一種宗教的エクスタシーに達して訳のわからない言葉を口にする事。当時の教会にはこの現象が結構見られた。パウロはこれを高く評価しなかったけれど否定はしなかった。

ところでパウロはこのリストの前に冒頭の言葉を記している。「イエスは主である」とわかる、言い表わす、これは聖霊によることだよ、と。ということはこれが一番の賜物だと言えないか。実は13章になると「もっと大きな賜物」として「愛」をあげているので、それからすれば「イエスは主」

との告白は二番目に重要なものとなるのだろう。

しかし順序はさておいてもこの告白が出来るということは極めて大変なこと。これはまさに聖霊の働きかけがなければまず無理なこと。だって十字架につけられた者が私の主だと言うのだから。主とは神だとか救い主の意。当時はローマ皇帝が主(キュリオス)と言われ皇帝礼拝が強要された。

こうした中、信徒は私達の罪が赦されるために犠牲の死を遂げてくれて、今復活して天にあり、聖霊として臨んでくれているイエスこそ真実の主と言ひ表した。結果、主なる皇帝を拜まぬ信徒は迫害を受けることに。

頭がいいからイエスは主である、とわかるのではない。ただ聖霊がその人に働きかけて心のまなこを開いてくれることによって2千年昔のイエスがグッと近くなる。他ならぬ私のために命を捨てたことが有難く思われてくる。イエスはヨソの人ではなく私の神、私を罪と死から救い永遠の命を与える者と心の底から信じる者とされる。これはまさに聖霊による賜物と言わねば。この聖霊は風のように今あなたに向かって吹いている。

### 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時～7時